

平成 24 年度 第 6 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

初田 賢司 藤原 良一

Activity Report of SPM Research Committee

Kenji Hatsuda Ryoichi Fujihara

研究委員会では現在 10 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 24 年 12 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD の考え方を応用して検討しています。今年度は QFD の考え方やソフトウェア設計のための技法の考え方をを用いて見積もり精度向上のための方法検討を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

- ・ 10 月 29 日(月) 研究会開催

ProMAC での発表結果、関連する発表のフィードバックを行った。

- ・ 11 月 26 日(月) 研究会開催

現在までの研究での課題、今後の展開の可能性を議論し、次の目標として春季大会の発表の可能性を検討した。

<今後の予定>

- ・ 12 月 17 日(月) 研究会開催予定

11 月に検討した今後の方向性に対して、文献調査、および検討経過の確認と議論を行う。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則毎月 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心として、メンバー各自の調査・研究について発表し議論を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

12 月 15 日に開催しました。武井主査から「戦略的リスク・マネジメントの実践」に関する研究報告が発表されました。

<今後の予定>

次回例会は 2013 年 2 月に開催予定です。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】 spm-risk@yahoogroups.jp

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクトに焦点を当てて研究会を行っています。

2009 年春季大会にて発表した「電子政府調達計画にみる社会基盤情報システムプロジェクト成功への提言」を基にソーシャル PM の体系化、モデル化を行う等検討を深めてきました。また、研究会の活動概要を 2011 年の秋季大会で報告しました。

<活動実績と今後の予定>

2010 年より政府最適化プロジェクトの PM の方々の協力を得て、ソーシャル PM の視点で経験や教訓の整理を行い、研究会の成果としてとりまとめる予定です。

今後、社会インフラプロジェクトの事例研究として、東日本大震災の復旧復興プロジェクト等を新たな企画テーマとして研究を行うこと等、新年より立ち上げるべく研究会の体制を検討中です。

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 西沢 和民 スピカ・ソリューションズ)

当研究会のメンバーが、PM の育成やプロジェクトマネジメントに関する様々なテーマについて、2010 年から学会誌に連載してきました。研究会の成果を発表する場としてより一層活用するために、全体のフレームワークを決め、来期 (2013 年 4 月) から PM 人材育成研究会連載「第 2 部」として掲載することを目指しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

連載「第 2 部」の基本テーマを「企業のプロジェクトマネジメント力向上—中堅リーダーや経営層の PM 育成」とすることになりました。10 月度例会では、基本テーマに沿って各メンバーが書きたい内容を発表し、討議しました。

11 月度例会では、基本テーマの掘り下げと、各

メンバーの書きたいテーマを関連付けるための討議を行いました。

<今後の予定>

次回 12 月度例会は 12 月 26 日に開催予定です。連載「第 2 部」全体のストーリー作りを行います。

【問い合わせ先】 pm-com@yahoogroups.jp

(5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

個人のゴールや目標の達成に、モダン PM の知恵を体系的に用いる研究をしています。適切な目標と意欲を常に持ち結果を確実に出す、そしてステークホルダーと社会に良い影響を与える、といった個人 PM の確立を目指しています。文献等にまとめる努力、ペース設定する個人 EVM の追究、リーダー育成との関連づけなど、会合での取り組みは広範囲です。昨年出した書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は引続き好評です。ロードマップを様々な発想で更新しながら、高いゴールを目指す活動を今後も楽しく続けていきます。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

10 月 15 日第 46 回会合（於 筑波大学東京）報告と自由発表 5 件、情報交換

11 月 26 日第 47 回会合（於 筑波大学東京）報告と自由発表 5 件、目標設定のありか他検討

<今後の予定>

12 月 18 日第 48 回会合、次々回の 2 月には 50 回記念として合宿で研究会を行う予定

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

(6) 歴史に学ぶ PM 研究会

(主査：桑原 秀仁 トヨタファイナンス)

歴史上の出来事や人物についてプロジェクトマネジメントの視点から焦点を当てることで見えてくるものがあるのではないかと、ということで当研究会に集っています。歴史に学ぶプロジェクトマネジメント研究会では、メールを活用したコミュニケーションを図っています。各メンバーが自分の取り組みテーマをマイペースで調査/研究しています。

<メンバーからの近況報告>

多くの歴史プロジェクトにおいてリーダー達から共通して学ぶ点の一つは、一心に事を成し遂げる、ひたむきな姿勢と行動であると思う。P.F. ドラッカーは『真摯さを絶対視して、はじめてマネジメントの真剣さが示される』『リーダーシップが発揮されるのは真摯さによってである。範となるのも真摯さによってである』『真摯さはごまかせ

ない』とその著書の中で述べている。現代のプロジェクトマネジメントにおいても、オーナー、リーダー、マネジャーの「真摯さ」は極めて重要なファクターではないだろうか。プロジェクトを正しく導くための大切なメンタリティーと言っても過言ではなかろう。多くの知識と管理能力を有している悩める現代 PM が、長い歴史から学ぶべき最も根源的で普遍的な心は「真摯さ」に尽きるかも知れないと思う。

(7) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・10 月 17 日（水）第 38 回定例会合開催

ProMAC2012 で発表したメンバー 4 名から、発表内容の説明を実施。今後の研究会活動にどう活かしていくか等について議論を行った。

8 月に開催した「プロジェクトマネジメント学会メンタルヘルスマネジメント研究会 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL」の成果報告に関する、出版内容及び学会誌トピックス記事原稿の確認。

「昔はなぜメンタルヘルスが少なかったか？」に関する研究内容を議論。

<今後の予定>

・12 月 18 日（火）第 39 回定例会合開催予定

・01 月 16 日（水）第 40 回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(8) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数、コスト、工期、品質、リスクなどの測定量を正しく分析するため、データ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画へ活用していくことを研究していきます。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

統計の基礎から体系立てた知識を確立していくために勉強会を実施しています。現在は EXCEL を使った統計解析についての学習、また実務での活用についてディスカッションしています。

10 月 9 日、11 月 13 日 研究会開催。

<今後の予定>

12年度は統計の学習を中心に活動を行いました。13年度は応用面に重点を置いた活動を行っていく予定です。

会合は1回/月を目安に開催していきます。
ご興味ある方の参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】 kajiyama@dsrnet.jp

(9) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

ものづくりのための研究開発プロジェクトマネジメントの問題点抽出・分析と、その結果に基づく使いやすいPMの研究活動に、16名の産学協同検討チームが取り組んでいます。

<過去2ヶ月の活動実績>

第3回会合(10月25日)で、本研究会が取り組むべき課題について、メールによる先行議論をベースにディスカッションしました。また、メンバーによるPMの基礎と研究事例紹介が行われました。

<今後の予定>

次回会合(12月20日)でこれまでに抽出・議論された課題の分類・絞り込みを行い、来年度の実施及び分担計画を作成する予定です。また、過去に行われたR&D PM先行研究の招待講演を行います。

(10) フロネシス(知恵ある実践)PM研究会

(主査：本間 利久 北海道大学)

2012年10月より新しい研究会として発足しました。

研究会名称のフロネシスは、アリストテレスによる知恵のあり方の一つで、実践知(practical wisdom)と訳され、倫理や情動、人間の行為、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト(PMBOKガイド)を取り巻いている世界(①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制)を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践(フロネシス)につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系は、日本企業でのプロジェクトマネジメントのフロネシスとなり、日

本の企業が世界で戦えるプロジェクトまたはプログラムマネジメントで求められているものに他なりません。

<過去2ヶ月の活動実績>

来年度、韓国での研究会フォーラム開催にむけて、漢陽大学と在韓日本企業関係者との間で事前調整の検討をソウルで行いました。12月7日(金)、北海道大学ーソウル大学の大学間シンポジウムの分科会およびプロジェクトマネジメント学会北海道支部講演会において、新研究会の活動内容を紹介し、研究会への参加を勧誘しました。

<今後の予定>

12月17日(月)研究会を開催し、これまでの活動内容を報告後、メンバーの募集方法、会合の年間スケジュールおよび具体的な活動内容等を検討する予定です。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 初田 賢司
kenji.hatsuda.fn@hitachi.com

研究委員会委員 米玉利 紀一郎
kiichiro.yonetamari.ar@hitachi.com

研究委員会委員 小川 純平
jumpei.ogawa.ap@hitachi.com